

(プロローグ 1)

現代の日本……

家族・友達に恵まれて裕福に暮らしている少年・少女達がいる。

しかし……

その裏で問題を抱えて生きている子供達もいるのも事実である。

特に「引きこもり」・「いじめ」・「虐待」。これらは少年・少女達が成長していく過程で大きな傷を残しかねない。

その中で、彼らは「希望」を見つけられるのだろうか……

これは、前途多難な運命を背負ったある 1 人の少女の物語……………。

(プロローグ 2)

彼女の名前はさくら。15 歳である。

彼女は自分の部屋からはほとんど出ず、家の外に至っては、全く出ないと言  
ってよい。

つまり、彼女は今「引きこもり」のまっただ中である。

彼女には、両親がいたが、父親は突然急死。母親は「引きこもり」になった  
さくらに憤りを感じ、ついに発狂した。

母親は、さくらに対して、度重なる暴力をふるっていた。  
たまたま、それを目撃した人がいたため、母親は精神科医に入院し、最悪の事  
態は逃れた。

しかし、その虐待の傷はすさまじく、頬の傷のみならず、実は彼女の体中は包帯だらけである。

その後も、児童施設の人や、警察が来たが、家の扉すら開けない。もはや、彼女は誰も信用出来ない状況だ。

……彼女は、部屋にお菓子等の食糧を棚に蓄えていた。それで飢えを凌いでいた。

だがある日、

(左の部屋(主人公の部屋))

(マップが表示。主人公が食糧棚の方向を向いている。)

「……何も入ってない。」

(左右キョロキョロ)

「他に…、どこにいれてたかな……？」

(主人公移動可能)